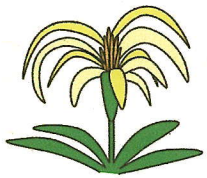
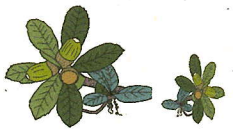
室戸市教育委員会

令和６年度　自己点検・評価報告書

～ふるさとを愛し、心豊かでたくましく 生きる力を育む教育～







令和７年７月

１．自己点検・評価

評価ランク　　Ａ：優れた取組がなされており、成果が十分上がっている
Ｂ：問題なく取り組んでおり、一定の成果が上がっている
Ｃ：取り組んでいるが、さらなる改善が必要である
Ｄ：取組が不十分であり、一層の改善・努力が求められる

大項目	中　項　目	小　項　目	実　績　及　自　己　評　価	
１　教育委員会の活動	（１）教育委員会の会議	①開催状況	○定例会・・・１２回開催（毎月） ○臨時会・・・　５回開催（８月・１０月・３月）	B
		②運営上の工夫	○統合中学校に関する協議や諸議題について、事前のスケジュール周知及び関連資料の配付等により、計画的に審議が行えた。	
	（２）総合教育会議	①開催状況	○９月・１月の２回開催した。	B
		②協議内容	○教育政策（室戸市教育振興基本計画・令和６年度事業実施計画）について協議するとともに、教員の働き方改革・放課後の子どもの居場所づくり等について協議を行った。	
	（３）教育委員会と事務局との連携	教育委員会と事務局との連携	○定例会で事業報告を行うとともに、教育委員会の行事への参加を依頼した。	B
	（４）教育委員の自己研鑽	教育委員の自己研鑽	○安芸郡市町村教育委員会連絡協議会主催の合同研修へ参加している。 ○香南市教育委員会や統合した安芸中学校への行政視察研修を７月に行うなど、委員の研鑽の場の確保に努めた。	A
	（５）学校、教育施設に対する支援や指導・施設の整備	①学校等への訪問・支援	○市内全小中学校を訪問し、指導助言を行うとともに実態把握に努めた。	B
		②所管施設の訪問・支援	○令和６年度は学校訪問を行っているが、学校以外の施設については、訪問は行っていない。	

大項目	中　項　目	小　項　目	実　績　及　自　己　評　価	
2教育委員会が管理・執行する事務	（1）教育行政の基本的な方針に関すること		○年度当初に「第３期教育振興基本計画の令和６年度実施計画」を策定し、計画に沿った事業に取り組んだ。 ○「令和７年度教育行政方針」を策定し、教育振興基本計画の事業実施の方針を示した。	B
	（2）教育委員会規則等の制定又は改廃に関すること		○（一部改正） 室戸市立学校設置及び管理条例　他１０件 ○（廃止） 室戸市教育委員会バス使用規程 ○主に、学校における業務改善及び元小学校の廃校に伴う条例・規則等の改正を行った。	B
	（3）学校その他の教育機関の設置及び廃止に関すること		○室戸市保育所及び学校適正規模・適正配置実施計画に基づき、室戸市統合中学校あり方検討委員会を設置し、統合中学校開校に伴う様々な課題について調査及び検討を行った。（８回） ○令和６年度末での室戸市立元小学校閉校及び室戸小学校統合に向けた業務及び各種手続きを行った。	B
	（4）教育機関の職員の任命その他の人事に関すること		○県費負担教職員、教育委員会事務局の人事異動及び教育委員会事務局職員の処分の決定、並びに社会教育委員等の委嘱及び任命を行った。	B
	（5）教育予算等議会の議決を経るべき議案について意見の申し出に関すること		○補正予算及び令和７年度当初予算を審議し、承認を行った。 ○室戸市立学校設置及び管理条例、室戸市中央公園条例等の一部改正議案を審議し、承認を行った。	B
	（6）事務の適正執行に関すること		○個人情報等の重要書類について、重要書類受渡表にて、受渡日、発送者、受取者を記録に残す仕組みづくりを行い、適切な管理に努めるなど、事務の適正執行に努めている。	B

大項目	中項目		小項目	実績及び自己評価	
3　教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務	(1)学校教育に関すること	①学校教育内容の充実	①児童生徒の学力の向上	○令和６年度全国学力・学習状況調査では、小学校は国語（－3.7）・算数（－6.4）、中学校は国語（－4.1）・数学（－0.5）で全国平均を下回る結果であった。12月の高知県学力定着状況調査は、中２が全教科で県平均を上回ったが、中１は理科（＋0.7）を除く４教科が県平均を下回り、小４は国語（＋1.4）・算数（＋1.4）、小５は国語（－1.1）・算数（－2.5）という結果であった。学力調査等の結果を授業改善につなげるため、講師を招聘した研究主任会を３回開催して校内研修のマネジメントについての協議や小中合同での学力調査の分析研修会を開催し、組織としての取組の充実についての協議を行ったが、十分な授業改善につながっていない。学校全体でどういう授業を目指すのか共有し、取り組む必要がある。	C
			②心の教育	○令和５年度から令和６年度の不登校児童生徒数は、小学校は３名→３名、中学校12名→３名と中学校では大幅に減少し、そのうち新規の不登校は、小学校１名、中学校０であった。中学校区での不登校を未然に防ぐ取組（居場所づくり、絆づくり）を継続していく。	
			③健康・体力の向上	○「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果の体力合計点は、全国比で、小学校で男子（－1.3）・女子（＋１）、中学校では男子（－2.7）・女子（＋0.8）で令和５年度より女子に改善が見られた。各校が調査結果をもとに課題を把握し、市全体で「こうちの子ども体力・運動能力向上プログラム」を活用した取組の推進を図ることで、改善できるよう取り組んでいく。	
			④校種間連携教育の推進	○保小架け橋研修を２回開催し、資質・能力をつなげるスタートカリキュラム・交流計画を見直した。小中連携では、中学校から小学校への乗り入れ授業やリモート交流等の授業交流が実施されるなど校種間連携に関する取組をすすめた。	
			⑤教職員の資質・指導力向上	○子どもが主体的に学ぶ授業づくりや学級での人間関係づくりについて、８月に立正大学の鹿嶋真弓教授を招聘し、研修会を実施した。	
		②家庭・学校・地域社会の連携教育の推進	①ふるさと教育の推進	○室戸市アクションプラン「未来を切り開く人材育成事業」をふるさと教育と位置づけ、各校で総合的な学習の時間を中心としたジオパーク学習に取り組むことにより、地域への愛着、地域に貢献したいと思う意識・意欲へとつなげられている。	C
			②家庭での基本的な生活習慣及び学習習慣の定着化	○「早寝・早起き・朝ごはん」の基本的な生活習慣に関しては定着しつつある。家庭学習に関する調査では、土日に全く勉強をしないと回答した児童生徒の割合は小６で16.3%、中３で19.7%となっており、全国よりも高かった。授業での協働的な学びを家庭学習での個人の学びへとつなげる学びのシームレス化において、タブレット端末の活用を今以上に進めていく必要がある。	

大項目	中項目		小項目	実績及び自己評価	
3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務	(1)学校教育に関すること		③地域学校協働本部の活動内容の充実、コミュニティスクール設置への取組	○令和５年度に全地区で学校運営協議会の設置が完了し、令和６年度は各地区で以下のとおり会議を実施した。 佐喜浜地区…４回、室戸地区…３回 吉良川地区…４回、羽根地区…２回	
		③教育環境の充実と施設整備	学校施設の教育環境の充実	○非構造部材耐震化事業を実施していない羽根小学校、元小学校、吉良川中学校において、危険個所の修繕を行った。 ○ＬＥＤ設置工事を佐喜浜小学校で実施した。 ○室戸中学校において、車いすの生徒に対応するため、いす式階段昇降機を設置した。 ○全小学校及び吉良川中学校、室戸中学校において特別教室等にエアコンを設置した。	B
		④教育研究所等各事業の充実	①各校の学力向上対策への支援	○外国語の意識調査結果の分析から課題を把握し、小中連携や単元構成の工夫等について、校長会や担当者会で提案したり、研修推進員が自ら授業を行ったりして、市全体に情報発信して、課題解決につなげられた。	B
			②不登校児童生徒への適応指導に関する研究や支援	○教育研究所では、各校へ毎月の３日欠席調べを依頼して、長期欠席児童生徒の状況を把握し、学校訪問や支援会への参加を通して、関係機関と協力し、個別支援や学校の取組の充実につなげた。 ○教育支援センターでは、学校と情報共有しながら、児童生徒の居場所づくり、学校復帰、学力保障の取組を進めて、進路実現につなげ、通所につなげるための家庭訪問による支援も行った。 ○教育研究所主催による教職員や支援員を対象とした研修を開催した。８月には、特別支援教育として、桃山学院教育大学の松久眞実教授を招聘しての「児童生徒理解を深める研修会」、高知大学の是永かな子教授を招聘しての「発達障害研修会」を実施することができた。また、１月には安藤桃子氏を招聘した「教師力向上研修会」を開催し、若年教員の指導力向上へとつなげられた。	

大項目	中項目		小項目	実績及び自己評価	
3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務	⑵生涯学習に関すること	①生涯学習の充実	①学習機会の提供	○公民館において世代間交流事業やシルバーセミナー、文化祭などを行った。８月には、サマーセミナー、1月には谷口睦美コンサート、2月には吉良川公民館、吉良川小学校で出張サマーセミナーを実施し、生涯学習活動を通じて地域住民の文化の向上につなげた。 ○文化芸術フェスティバル開催により、室戸市活性化事業を実施し、地域住民の教養を高めた。	B
			②人権教育事業の推進	○人権教育推進講座の開催、市人権教育研究協議会等との連携により、人権教育の普及・拡大に取り組んだ。	
			③図書館サービスの充実	○毎月特集コーナーの設置や秋の読書週間スタンプラリー等を開催し、貸出冊数の増加、読書意欲の向上を図った。 ○図書館システムや図書館のネットワークを駆使し、利用しやすい図書館づくりに努めた。 ○巡回図書、読み聞かせなどを実施し未就学児や小学校低学年に読書に慣れ親しむ機会の提供や乳幼児健診時読み聞かせ指導を行った。	
		②生涯スポーツの充実	①市民スポーツの推進	○マラソン大会、駅伝大会、少年野球春季選手権大会等のスポーツ大会を開催した。	B
			②地域スポーツ団体との連携	○体育会、スポーツ少年団、スポーツクラブ等との連携を図るとともに、参加者への実技指導を行い、競技力の向上につなげた。	
			③各種スポーツ合宿の推進	○県外の大学及び高等学校等に対して合宿誘致を行い、韓国ラオン高校、リトルリーグチーム１チームのほか、龍谷大学等5校の大学を迎えた。 ○市内宿泊施設の閉鎖により、誘致に向けた宿泊施設の確保が今後の大きな課題となっている。	

大項目	中項目		小項目	実績及び自己評価	
3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務	(2)生涯学習に関すること	③伝統文化の活用・継承	①吉良川町並みの保存・活用	○国・県の補助事業を活用し、重要伝統的建造物群保存地区内の建築物の修復を行い、文化財の維持、保存を推進した。また、保存会と連携を図り、ひな祭り行事を開催し、市民への啓発に努めた。	B
			②地域文化・伝統芸能の保存・活用	○国選択の文化財シットロト踊りの傘修繕を行った。 ○地域住民の伝統芸能の保存や活用に対する意識を高めるため、捕鯨に関する文化財を他の文化財と共に収録したDVD「時のふるさと室戸」の映像保存を行った。	
			③文化芸術活動の推進	○室戸市美術展覧会を開催し、創作意欲の向上や芸術・文化活動の振興を図るとともに、児童・生徒の作品制作を通じて美術教育の推進を図った。	
		④青少年の健全育成	①少年育成センターの充実	○警察や学校等関係機関と連携を図り、放課後市内巡回や夜間特別補導の実施及び薬物乱用防止教室、ネット・スマホ安全利用教室、誘拐被害防止教室、不審者対応教室等を開催し、青少年健全育成に取り組んだ。	C
			②放課後対策事業の推進	○放課後の子どもたちの安全安心な居場所づくりや仲間づくりのために放課後児童クラブ及び放課後子ども教室を開催した。また、支援員やコーディネーターの人員の見直しを行うなど、体制の改善に取り組んだ。	

２．自己点検・評価に対する意見（学識経験者の知見）

１教育委員会の活動

定例会は計画的に、臨時会も必要に応じて開催できています。特に、令和６年度には室戸統合中学校の整備に係る室戸高等学校との施設共用についての再協議が必要となりました。このため、定例会でも複数回協議を行い、関係先の意見を集約のうえ、丁寧な議論を行ってきたことは評価できます。

また、７月には市教育委員行政視察研修を行うなど、委員としての識見を深める研修機会の確保に努めています。

２教育委員会が管理・執行する事務

教育行政の基本的な方針や規則の改正等に関する事務等については、概ね良好に処理されています。

保育所及び学校適正規模・適正配置については、今後の本市の教育に大きく関係するものであり、市民や保護者の関心も非常に高い重要な課題です。特に統合中学校にかかる協議などでは、丁寧な議論を重ね、方向性を決定したことは大いに評価できます。

今後においても、市民の声に真摯に耳を傾け、本市の教育行政の推進については「子ども達のために」を第一に考えて、適切に進めて下さい。

また、個人情報を含む情報管理については、事務局職員の研修による意識付けや、管理体制を見直し、再発防止策を引き続き徹底して下さい。

３教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

（学校教育）

学力については、全国学力・学習状況調査において、小学校では国語、算数ともに、全国平均を下回っており、中学校でも国語、数学ともに、全国平均を下回る結果となっています。各学校は学力調査の結果等を踏まえ、校内研修や授業改善に組織的に取り組む必要があると考えます。

今後においても、指導主事による学校訪問や担当者会により、基礎学力の定着のため、授業改善の取り組みを進めて下さい。

不登校への対応については、現状を把握のうえで、教育支援センター及び教育研究所など関係機関との連携を図りながら、不登校を生じさせない学校づくりとともに家庭訪問や別室登校などを通じた不登校児童生徒への支援を進めて下さい。

プールでの重大な事故が多発しています。プールは、子ども達にとって魅力的な学習の場ですが、危険な場所でもあります。安全を考慮した施設の整備や再点検とともに教職員の研修など安心安全な取組をお願いします。

（生涯学習）

生涯学習については、世代間交流事業やシルバーセミナー、文化祭などの継続的な取組に加え、サマーセミナーの新しい取組を実施したことは評価できます。今後とも地域住民の交流とともに、文化の向上に努めて下さい。

図書館サービスについては、令和５年度に策定した「子ども読書活動推進計画」に基づき、学校、地域との連携を図りながら、子どもの読書活動の推進に努めて下さい。また、引き続き図書館システムやネットワークを活用し、誰もが利用しやすい図書館づくりに取り組んで下さい。

生涯スポーツの充実については、健康の保持・増進やレクリエーションを目的に、引き続き内容の充実とともに、各種大会を実施して下さい。
スポーツ合宿誘致の課題となっています宿泊施設の確保については、室戸市全体の課題であることから、市長部局と連携しながら、引き続き適切な対策を協議、検討して下さい。
伝統文化の活用、継承については、各地域の人口減少が進む中、今後においてどのように継承していくかは大きな課題です。そのためには、地域の盛り上がりや人材育成に取り組んでいく必要があります。今後とも各地区の魅力発信や、イベントの周知など、地域おこし協力隊の活用等も図りながら積極的に取り組んで下さい。

放課後子ども教室が一時期開催できていませんでしたが、関係者のご尽力とご協力によって、短期間で再開しています。今後とも重要な居場所づくりや仲間づくりの場として、保護者や子どもたちのニーズに応じた運営に努めて下さい。

人権教育の推進は、重要な課題であり、市長部局や関係団体と連携を深め、積極的に取り組んで下さい。

今後とも、あらゆる機会を通じて、子ども達や保護者をはじめ、地域の方々の声に真摯に耳を傾け、少子化・人口減少社会に対応した教育を推進し、本市の教育理念「ふるさとを愛し、心豊かでたくましく、生きる力を育む教育」の実現にご尽力下さい。

以上、総合評価は『Ｂ』とします。

令和７年７月３１日　　評価者　：　竹　本　俊　之